

傷の手当の新常識“湿潤療法”

傷は消毒しない！乾かさない！水道水で洗うだけ！

けがをすると傷口から浸出液が出てきますが、この浸出液には皮膚を再生させる物質が含まれています。

大切な浸出液を傷口に保持させる治療法が「湿潤療法」です。

湿潤療法のメリットは、早く傷が治り、傷跡が残らないことです。

家庭でできる湿潤療法

- ① 傷口から出血している場合は、まず止血を行う。
- ② 傷口を水道水できれいに洗う。
- ③ 傷口のまわりをティッシュなどで軽くふき、適切な「創傷被覆材」を使用して患部を保護し、傷を乾かさないようにする。
- ④ 創傷被覆材の表面に浸出液が染み出してきたら交換する。

「創傷被覆材」は、市販の「キズパワーパット」や「ハイドロコロイド包帯」(ズイコウ)、家庭用の食品包装用ラップでもOKです。

※ ただし、動物や人にかまれたキズ、深い刺し傷、ジグザグなきりきずなどは、感染をおこしていることがあるので、病院で診察を受けましょう。



台所用ラップで「湿潤療法」



もうすぐクリスマスですね

この中に、子どもたちと一緒に飾りを作って、一つ一つ飾りながらクリスマスを楽しみたいと思います。



リースを作りました。



看護師より

<ロタウイルスの驚異>

毎日様々な病気のお子さんをお預かりしますが、たまに状態が悪化して、入室中に処置が必要になることがあります。その中でも特に注意を要するのが感染性胃腸炎です。

下痢で入室した生後10か月女児。入室後経口補水液を投与していたにもかかわらず、頻回の水様便が出現。徐々に笑顔や活気がなくなり、便検査でロタウイルス陽性と判明しました。県立今治病院を紹介して点滴治療をして事なきをえましたが、乳児下痢症のお子さんはこのように症状が急変することがあるので、きめ細やかな観察とケアが必要だと改めて痛感しました。

11月のご利用状況

11月の利用延べ人数は46名、一日平均利用人数は2.5人でした。

年齢別では、1歳児が19名(41%)で最も多く、次いで2歳児11名(24%)、3歳児の8名(17%)の順でした。疾患別では急性上気道炎が17名で最も多く、それ以外では月前半にはRSウイルス感染症や手足口病が、月後半はアデノウイルス感染症やヘルパンギーナなどの感染症がありました。